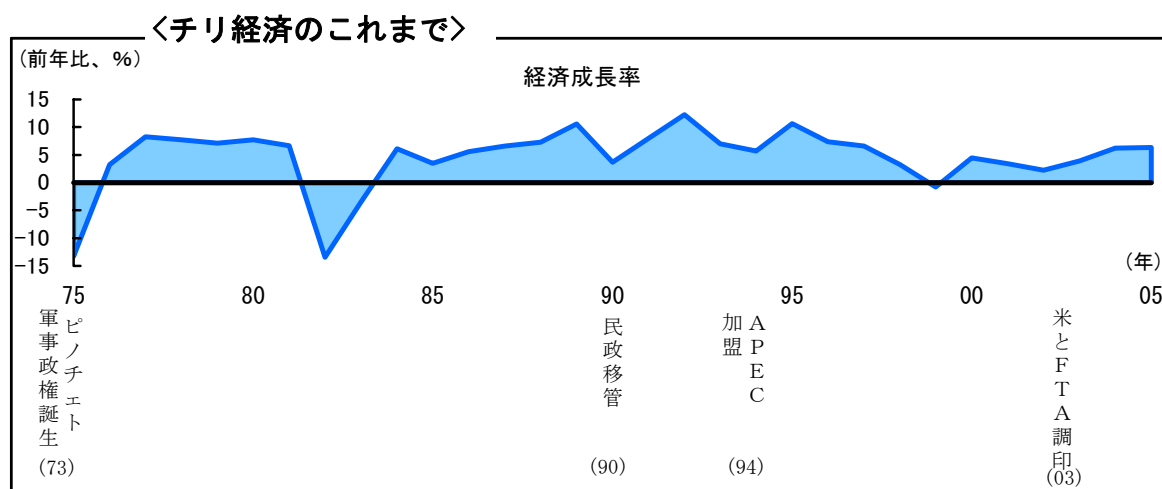


〈2005年〉

人口	1,596 万人 (日本の約 1/8)	財政会計年度	1月～12月
一人当たり GDP	4,250 ドル	為替制度	変動相場制
産業構造 (GDP 構成比)	1次産業 9.0 % 2次産業 41.0 % 3次産業 50.0 %	通貨	ペソ 1米ドル=560ペソ
		面積	75.6万km ² (日本の約2倍)



チリの主要経済指標

		94～03年	2004年	2005年	2006年			
					中央銀行	ECLAC	IMF	民間機関
実質 GDP	前年比%	3.3	6.2	6.3	5.5	5.5	5.5	実質 GDP
鉱工業生産	同上	2.8	8.0	5.6	—	—	—	平均
消費者物価	同上	5.4	1.1	3.1	3.2	—	3.8	5.7
失業率	%	6.9	8.8	8.0	—	—	—	最大
経常収支	億米ドル	▲ 17.0	▲ 15.9	7.0	—	—	—	6.0
(GDP比)	%	(▲ 2.3)	(▲ 1.5)	(0.3)	—	—	(0.5)	最小
財政収支	億米ドル	▲ 3.7	23.1	56.3	—	—	—	5.3
(GDP比、年度)	%	(▲ 0.5)	(2.4)	(4.9)	—	—	—	(5社)
政府債務残高	億米ドル	110.9	—	—	—	—	—	
(GDP比、年度末)	%	(16.3)	—	—	—	—	—	

(備考) 1.チリ中央銀行、チリ国家統計局、チリ大蔵省、IMF“International Financial Statistics”より作成。見通しの中央銀行“Monthly Survey on Expectation”(2006年5月)、IMFは“World Economic Outlook”(2006年4月)、ECLAC(国連ラテンアメリカ・カリブ委員会)は“Preliminary Overview of the Economies of Latin America and the Caribbean”(2005年)による。

2.政府財務残高の94～03年は94～2000年の平均。

〈2005～06年の経済〉

2005年の経済成長率は7－9月期に鈍化したものの、10－12月期には再度拡大し年間では6.3%の成長となった。これは、銅等の一次産品の価格高騰から輸出が堅調であったこと及び、それに伴う所得環境の改善により消費が拡大したことがある。

06年も引き続き堅調な成長が続くとみられ、インフレ圧力の高まりに伴う金融引締めが05年に引き続き実施されるとみられること等から若干鈍化するものの、5%半ばの経済成長率が見込まれている(中央銀行見通し5.5%、IMF見通し5.5%、民間機関5社平均5.7%)。